



2019年8月31日発行

有限会社 大宮工機

<http://www.ohmiyakouki.com>

取組期間：2018年3月～2019年2月

経営理念

“私達は真心を大切にし、人々の豊かな暮らしと未来の地球環境に貢献します。”

経営方針

1. お客様の満足を第一に考え、全社員が一丸となって行動します。
1. 安全を最優先に活動し、社員および関係者のしあわせを追求します。
1. 企業活動を通して互いに学びあい、成長・発展します。

環境方針

当社の経営理念および経営方針に基づき、持続可能な循環型社会の構築に貢献できる企業でありたいと願い、その実現のために努力します。

- ① お客様へ、できるだけ環境にかかる負荷が少ない商品を提供するように努めます。
- ② 濁水処理設備の更なる普及など、環境保全事業の拡充を図ります。
- ③ 沖縄の美しい海を保全し、生物多様性の維持に貢献するため、「海の種」の協力により養殖サンゴの苗を移植放流する活動に取り組みます。
- ④ オフィス環境の省資源化、省エネルギー化および廃棄物削減に取り組みます。また、事務用品等の購入に際しては、できるだけ環境に配慮した製品を選定するように努めます。
- ⑤ 使用する車両および機械等について、省資源化、省エネルギー化および廃棄物削減に取り組みます。また、車両および機械等の購入に際しては、できるだけ環境に配慮した製品を選定するように努めます。
- ⑥ 化学物質の適切な管理と適切な使用量の設定等に努めます。
- ⑦ 持続可能な循環型社会の構築に向けて、社員、お客様、取引先、地域の皆様等へ環境情報の提供に努めます。
- ⑧ 環境に関する法律、規則及び条例等を遵守し、環境保全に努めます。
- ⑨ 全社員が一丸となって環境保全活動に取り組みます。

2006年12月1日制定

2014年12月2日改訂

2016年11月7日改訂

有限会社 大宮工機

代表取締役 宮城靖一

【1】 事業活動の概要

1) 事業所名及び代表者氏名

有限会社 大宮工機
代表取締役 宮城靖一

2) 所在地等

本社：沖縄県島尻郡南風原町字宮平 631 番地
電話：098-889-6166 FAX：098-888-3424
ホームページアドレス：<http://www.ohmiyakouki.com>
宮平 A ヤード：沖縄県島尻郡南風原町字宮平 492-8
宮平 B ヤード：沖縄県島尻郡南風原町字宮平 791-3
友寄ヤード：沖縄県島尻郡八重瀬町字友寄 109-11
山川ヤード：沖縄県島尻郡南風原町字山川 286 番地 18
駐車場ヤード：沖縄県島尻郡南風原町字宮平当間原 651 番地 1

3) 事業の内容

- ・ 建設機械のレンタル・販売・修理
- ・ 赤土対策・濁水処理事業
- ・ レンタカー事業

4) 事業年度

3月1日から翌年の2月末日まで

5) 事業の規模

表1. 事業の規模

活動規模	単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
		2014.3～ 2015.2	2015.3～ 2016.2	2016.3～ 2017.2	2017.3～ 2018.2	2018.3～ 2019.2
売上高	百万円	376	368	384	386	398
社員数	人	29	28	31	35	35

※ 社員数は年度末時点での人数とする。

6) 対象範囲

全組織、全活動

【2】 主要な環境活動計画の内容と取組結果

下記①～②より、目標値を設定した。

- ① 各項目とも売上高（百万円）当たりの量で目標値を設定する。
- ② 過去3年間の実績値より、それぞれの項目で最も低い値を基準値として定め、その値より1%ずつ下回ることを目標とする。

※購入電力による温室効果ガス排出量は排出係数が毎年変わるため目標値は設定しない。

表1に過去3年分の実績値と'18年度～'20年度の目標値を示す。

表2. 過去3年間の実績値と目標値

項 目		単位	'15年度	'16年度	'17年度	基準値	'18年度 目標値 (基準値 -1%)	'19年度 目標値 (前年度 -1%)	'20年度 目標値 (前年度 -1%)
			売上高	百万円	368		384	386	
総エネルギー投入量	購入電力	kWh/百万円	72	73	80	72	71.3	70.6	69.8
	化石燃料	ℓ/百万円	270	243	208	208	206	204	202
総物質投入量	紙資源投入量	kg/百万円	0.70	0.70	0.77	0.70	0.69	0.68	0.67
水資源投入量	総排水量	m ³ /百万円	2.24	2.36	2.37	2.24	2.22	2.20	2.17
温室効果ガス排出量	購入電力 (排出係数)	kg-CO ₂ /百万円	57.9	58.7	63.6	57.9			
	化石燃料	kg-CO ₂ /百万円	632	576	518	518	513	508	502
廃棄物等総排出量	一般廃棄物 (再生利用)	kg/百万円	4.09	4.03	5.11	4.03	3.99	3.95	3.91
	一般廃棄物 (焼却発電)	kg/百万円	2.90	2.81	2.58	2.58	2.55	2.53	2.50
	産業廃棄物 (再生利用)	kg/百万円	70.1	99.5	76.0	7.01	6.9	6.9	6.8
	産業廃棄物 (単純焼却)	kg/百万円	37.0	41.7	47.9	37.0	36.6	36.3	35.9

表 3 に目標値と結果及び評価について示す。

表 3. 目標値と結果及び評価

項 目		単 位	目 標 値	'18 年度 結 果	結 果 (±%)	評 価
総エネルギー投入量	購入電力	kWh/百万円	71.3	77.3	8.4	×
	化石燃料	ℓ/百万円	206	166	△ 19.4	○
総物質投入量	紙資源投入量	kg/百万円	0.69	0.74	7.00	×
水資源投入量	総排水量	m ³ /百万円	2.22	2.31	4.35	×
温室効果ガス排出量	購入電力	kg-CO ₂ /百万円	/	/	/	/
	化石燃料	kg-CO ₂ /百万円	513	408	△ 20.4	○
廃棄物等総排出量	一般廃棄物(再生利用)	kg/百万円	3.99	4.91	23.1	×
	一般廃棄物(焼却発電)	kg/百万円	2.55	2.27	△ 11.07	○
	産業廃棄物(再生利用)	kg/百万円	69.4	64.3	△ 7.39	○
	産業廃棄物(単純焼却)	kg/百万円	36.6	29.6	△ 19.2	○

【3】 主要な環境活動計画の内容と取組結果の評価

環境方針①

方 針	2018 年度の環境活動計画	2018 年度の実績結果と評価
お客様へ、できるだけ環境にかかる負荷が少ない商品を提供するように努めます。	(1)発電機(出力 15~60kVA)は、極超低騒音型が占める割合を 100%めざす。	2018 年度は、極超低騒音型発電機を 4 台更新したが、今後は古い発電機と入替をするなどして増機していきたい。また、消費電力が小さい(50W)LED ライトは 184 台増やすことができた。ハウス照明については、蛍光灯が切れ次第順次 LED タイプに入れ替えている。
	(2)従来型の発電機より環境負荷の少ないインバーター式発電機の導入を進める。	

環境方針②

方 針	2018 年度の環境活動計画	2018 年度の実績結果と評価
濁水処理設備の更なる普及など、環境保全事業の拡充を図ります。	(1)2017 年度の濁水処理設備保有台数は 33 台で稼働率 42%、流出防止土砂量は 274tであった。2018 年度は稼働率 45%、土砂量 300tをめざす。 (2)より高度な処理(透明度をあげる)を行う装置を開発し、それを現状の設備に付加していく。 (3)情報発信と環境配慮型設備の普及に努める。	2018 年度の濁水処理設備稼働率は 56%、土砂量は 379tであった。稼働率 14%、土砂量は 38%増加した。これは海域に近い大型現場が複数あり、大量の海水が湧き出てその海水を濁水処理設備で処理したことが土砂量の増加の原因となったと考えられる。 排泥補助装置を濁水処理設備 800 型に 10 台・500 型に 4 台 100V に 16 台に設置した。 情報発信は、現在濁水処理設備を納品した際にその都度写真を撮り、自社の HP に掲載しているが、お客様への掲載許可の確認方法などを再検討する。

環境方針③

方 針	2018 年度の環境活動計画	2018 年度の取組結果と評価
沖縄の美しい海を保全し、生物多様性の維持に貢献するため、養殖サンゴの苗を移植放流する活動に取り組めます。	担当 濱里 (1)2009 年 1 月から「海の種」の協力により、養殖サンゴの苗を海へ移植放流する活動を行っている。濁水処理設備を 1 台納入する毎にサンゴの苗を 1 本移植放流し、設備を使用して頂いたお客様に、移植したサンゴの写真添えて「海からの感謝状」を届ける。 2017 年度は 35 本、これまでに 418 本を移植放流した。2018 年度は 50 本を目標にする。	2018 年度は 50 本の目標に対して、59 本であった。濁水処理設備の稼働率が高かったため目標達成できた。今後は濁水処理設備以外の環境負荷低減型設備を納品した際にも、サンゴの苗を移植放流することを検討する。

環境方針④

方 針	2018 年度の環境活動計画	2018 年度の取組結果と評価
オフィス環境の省資源化、省エネルギー化および廃棄物削減に取り組めます。また、事務用品等の購入に際しては、できるだけ環境に配慮した製品を選定するように努めます。	担当 知念 脩 (1)電力 ①事務所の使用しない電気器具のスイッチをこまめに切る。 ②昼休み時間は事務所の電灯を消灯する。 ③電気器具のスイッチの近くに「節電」等を掲示し、社員の意識向上を図る。 ④事務所および休憩室の冷房の室温を 28℃以上、暖房はを 23℃以下に設定する。夏場は休憩室を使用する前に換気をして、熱を逃がしておく。また、休憩室の冷房器具を交換時期に省エネルギー型に入れ替える。 ⑤事務所のエアコン、プリンタ等を交換時期に省エネルギー型に入れ替える。 ⑥パソコンを使用していないときは電源を落とすなど、使用電力の削減に努める。 ⑦休憩室に LED 照明の導入を検討する。 ⑧太陽光発電等自然エネルギーを利用した設備の導入を検討する。 ⑨必要に応じて、自動点灯式照明器具を導入する。 ⑩エアコンの清掃をこまめにする。	事務所 100V は昨年度より、1417kWh(7.7%)減少、事務所 200V は 794kWh減少した。これは、2018 年 10 月に事務所内エアコンを洗浄したこと、事務所の人員が宮平 A ヤードと山川ヤードに移動しその分の電気使用量が変ったため、事務所の使用量が減少した。 今後も使用していない電気器具のスイッチをこまめに切るなど、さらに工夫を重ねて取り組みたい。
	間城 担当 (2)水資源 ①節水コマの使用や蛇口レバーに工夫をするなどして、無駄を省く。 ②水漏れをふせぐ。(週に 1 度事務所・ヤードの水道のあるカ所で水漏れがないか確認する。) ③社員一人一人が節水を心がけるように、水道あるカ所に節水を促す掲示をする。	事務所の水使用量は昨年度より 15 m ³ 減少した。これは、2017 年 4 月には水タンクに水をためる際に蛇口の閉め忘れがあったが、2018 年はそういったヒューマンエラーがなかったと考えられる。

担当 玉城	<p>(3)紙資源</p> <p>①ファックスの受信・送信、保存文書などの電子化により、コピー用紙の使用を抑制する。</p> <p>②コピー用紙、名刺、トイレトペーパーなどは再生紙を使用する。</p> <p>③社内会議ではプロジェクターを使用する等して、コピー用紙の使用を抑制する。</p> <p>④コピー用紙の裏紙をメモ用紙として再利用する。</p> <p>⑤社内で使用する資料等は、できるだけ両面印刷をし、連絡事項などは社内コミュニケーションアプリを使用する。</p>	<p>昨年度より 12.7 kg (4.3%) 減少する結果となった。</p> <p>これは貸機返納書については、製品に不備あったため購入数量がカウントされていないため実際の使用量より少なくなっているが、全体としては増加する結果となった。</p> <p>今後も文書管理システムや、社内コミュニケーションアプリ等の活用により、更なるペーパーレス化で紙資源投入量の削減を図りたい。</p>
担当 玉城	<p>(4)廃棄物排出量の削減</p> <p>① 一般廃棄物の分別を徹底する。(燃やすゴミ、アルミ缶、スチール缶、ペットボトル、ビン等)その内、有価物(新聞、OA用紙、段ボール、雑誌)は、障害者福祉サービス事業所ワークプラザ南風へ提供する。</p> <p>②乾電池は、できるだけ充電式乾電池を使用する。</p> <p>③マイボトル・マイ箸などを使用して、ゴミを出さないようにする。</p> <p>④コピー用紙の裏紙をメモ用紙として再利用する。(再利用した紙も再生紙とする。)</p> <p>⑤事務所で使用する消耗品は、詰め替え可能ものとするように努める。</p>	<p>焼却発電は、昨年度より 233kg(23.4%)減少した。分別の徹底は継続して行っているが、大幅に減少したのは計測表に記入漏れがあったと思われる。また、再生利用の缶類が(48.1kg)、ペットボトルが(31.7kg)減少したのは、2018年6月に事務所入り口に製氷機を設置したため、社員のマイボトル利用が増えたと思われる。有価物の新聞・段ボール・雑誌が合わせて(408.6kg)減少したのは、昨年度計測ミスであったためと思われる。その為今年度より2人で確認を行っている。今後も分別の徹底をし、計測漏れやミスをなくしてゴミ減量化に取り組んでいきたい。</p>
担当 玉城	<p>(5)グリーン購入</p> <p>①事務所内の備品は、グリーン購入チェックリストを作成し、環境に配慮したものとするように努める。</p> <p>②チェックリストを定期的に見直す(3月・9月)</p>	<p>社内で使用する紙は再生紙、事務用品は詰め替え用を利用するなど、品質や価格だけでなく環境への影響ができるだけ小さい製品を選び、グリーン購入に取り組んでいる。</p>

環境方針⑤

方 針	2018年度の環境活動計画	2018年度の取組結果の評価
<p>使用する車両および機械等について、省資源化、省エネルギー化および廃棄物削減に取り組めます。</p>	<p>(1)電力</p> <p>①高圧洗浄機の適切な使用を心掛ける。</p> <p>②作業場の使用していない電気器具のスイッチをこまめに切る。</p> <p>③必要に応じて、自動点灯式の照明器具を導入する</p> <p>④使用しない電気器具は撤去する。</p> <p>⑤作業場の使用しない電気器具は、コンセントを抜くようにする。</p>	<p>昨年度より宮平Aヤード 1,002kWh(31%)増加、山川ヤード 1,221kWh(23.4%)増加した。事務所の人員が各ヤードに移動したため、暑さ対策として扇風機やスポットクーラーを使用していること、高所作業車の点検が多かったことが原因と考えられ。また山川ヤードについては、ハウス2連棟を新たに設置し、休憩所として使用したことが原因と考えられる。</p>

また、車両および機械等の購入に際しては、できるだけ環境に配慮した製品を選定するように努めます。	担当 島袋	<p>(2)燃料</p> <p>①車両および建設機械には、適切な燃料を使用する。</p> <p>②車両および建設機械の不必要なアイドリング、空ふかしの禁止。</p> <p>③安全運転を徹底し、適切な舎監距離を保、急発進、急加速、急停止などを極力避ける。</p> <p>④配送車両の過積載をしない。</p> <p>⑤車両の日次点検(オイル・クーラント・タイヤの空気圧)を行う。</p> <p>⑥パソコン等で地図を確認して、適切な配送ルートをとる。</p> <p>⑦燃費効率が悪い車両の入れ替えを行う。</p> <p>⑧エコドライブ講習会を年1回以上実施する。</p>	<p>自社のガソリン使用量は682ℓ増加している。これは、遠くに大型の現場が増えたことが原因と考えられる。</p> <p>走行距離は5,894km減少した。これはレンタル車両であったパワーゲートを配送車両に変更したことで軽トラックの使用が減ったためだと考えられる。また、平均燃費が0.9km/ℓ減少したことは、1回あたりの配送で運ぶ量が増えたことが原因と考えられる。</p> <p>今年度は11月14日のエコドライブ講習会に2人が参加した。</p>
	担当 城間	<p>(3)水資源</p> <p>①できるだけ雨水タンクに貯水した水を使用する。</p> <p>②機械等の洗浄水は、濁水処理設備で処理し再利用する。</p> <p>③仮設トイレなどの洗浄に高圧洗浄機を使用することによって、水の使用を少なくする。</p> <p>④雨水タンクに流水計の設置を検討する。</p>	<p>昨年度と比べて宮平Aヤードは5㎡(2.7%)減少、友寄・山川ヤードは38㎡(14.2%)減少した。これは作業場の場を山川ヤードに移した際、ハウスに雨どいを設けて雨水タンクにためたこと、OM-100Vを設置し水を再利用して濁水処理設備の洗浄作業を行ったためと考えられる。</p>
	担当 新里	<p>(4)廃棄物排出量の削減</p> <p>①廃棄物の分別を徹底し、できるだけ有価物(鉄くず、廃油、バッテリー等)を増やすように周知する。</p> <p>②バックホー等に付着する泥を、できるだけ現場で落とすなどして、自社に持ち込まない。</p>	<p>昨年度と比べて全体的に単純焼却、廃油、金属は減少し、残土は少し増加する結果となった。これは、分別を徹底したことと、大幅な整理整頓による廃棄物の発生がなかった事が考えられる。今後も「機械・設備の点検」を適切に行い「資源の再利用」、「廃棄物の分別」などを徹底し、廃棄物削減に取り組みたい。</p>
	担当 新里	<p>(5)グリーン購入</p> <p>①車両および機械等を購入する際は、環境への負荷が少ないものを選ぶ。また、グリーン購入製品リストを作成し、環境負荷低減型商品の導入を進めていく。</p> <p>②商品別製品リストを作成する。</p>	<p>昨年度は発電機4台を、より環境負荷が少ない極超低騒音型へ更新した。また、国土交通省排出ガス対策型建設機械3次基準値をクリアした0.1バックホー2台、ミニミニバックホー1台を導入した。今後も環境に配慮した製品を選定し、グリーン購入を進めていきたい。</p>

方針		2018年度の環境活動計画	2018年度の実施結果と評価
化学物質の適切な管理と適切な使用量の設定等に努めます。	担当 上江洲	(1)関係法令や規則を遵守するため、管理方法や取扱い基準をまとめ社員へ周知する。	薬品保管庫内に「薬剤数量管理表」及び「薬剤の取扱い基準」を掲示し、薬剤の数量管理や取扱いを適切に行っている。
		(2)当社で取り扱う化学薬品の特徴や取扱いについて、社内学習会を行う。(年1回)	2月5日に自社の取り扱っている化学薬品の特徴・注意事項・関係法令等について勉強会を行った。

環境方針⑦

方針		2018年度の環境活動計画	2018年度の実施結果と評価
持続可能な循環型社会の構築に向けて、社員、お客様、取引先、地域の皆様等へ環境情報の提供に努めます。	担当 上江洲	(1)環境問題について社内学習会を行う。(年2回)	4月27日に「災害対応手順」について勉強会を開催し、11月27日に「地球温暖化」が環境に及ぼす影響や、私達が取組むべきこと等について勉強会を行った。
		(2)お客様、取引先等へ環境活動レポートを配布する。また、ホームページやラジオ番組、CM等を活用して、環境情報を提供する。	FM 沖縄の「人間大好きリレージョッキー」にも出演(隔週水曜日 10時30分～10時40分)して環境情報等の発信を行っている。
		(3)環境フェア等へ出展する。	10月19日～21日に「同友会・輝く見本市」に出展した。

環境方針⑧

方針		2018年度の環境活動計画	2018年度の実施結果と評価
環境に関する法律、規則及び条例等を遵守し、環境保全に努めます。	担当 上江洲	(1)環境関連法規のとりまとめを行ない、遵守状況を毎年3月と9月に確認する。	3月25日と9月29日に確認を行った。環境関連法規は全て遵守されている。
		(2)環境関連法規についての社内学習会を行う。(年1回)	1月18日に環境関連法規について勉強会を行った。

環境方針⑨

方針		2018年度の環境活動計画	2018年度の実施結果と評価
全社員が一丸となって環境保全活動に取り組めます。	担当 上江洲	(1)環境保全活動について、責任と権限を明確にした実施体制を構築する。また、定期的に社員教育を行ない、社員のレベルアップを図る。 ①6ヶ月に一度、全社ミーティングでエコアクション21の取り組み状況を確認し、改善点等について検討する。(年2回) ②環境委員会を定期的に開き(毎月1回)、環境委員のレベルアップを図る。 ③エコドライブ講習会など外部講習会に参加する。	エコアクション21の実施を始めた2006年度から、責任と権限を明確にした実施体制を構築し、環境保全活動をすすめてきた。 ①6月26日に活動報告と説明を行った。 ②2018年度は環境委員会を12回開いた。 ③11月14日のエコドライブ講習に2人が参加した。次年度も計画を立てて取り組みたい。

【4】13年間の環境活動の取組結果

図1. 過去13年間の総エネルギー投入量及び温室効果ガス排出量（売上高百万円当たり）

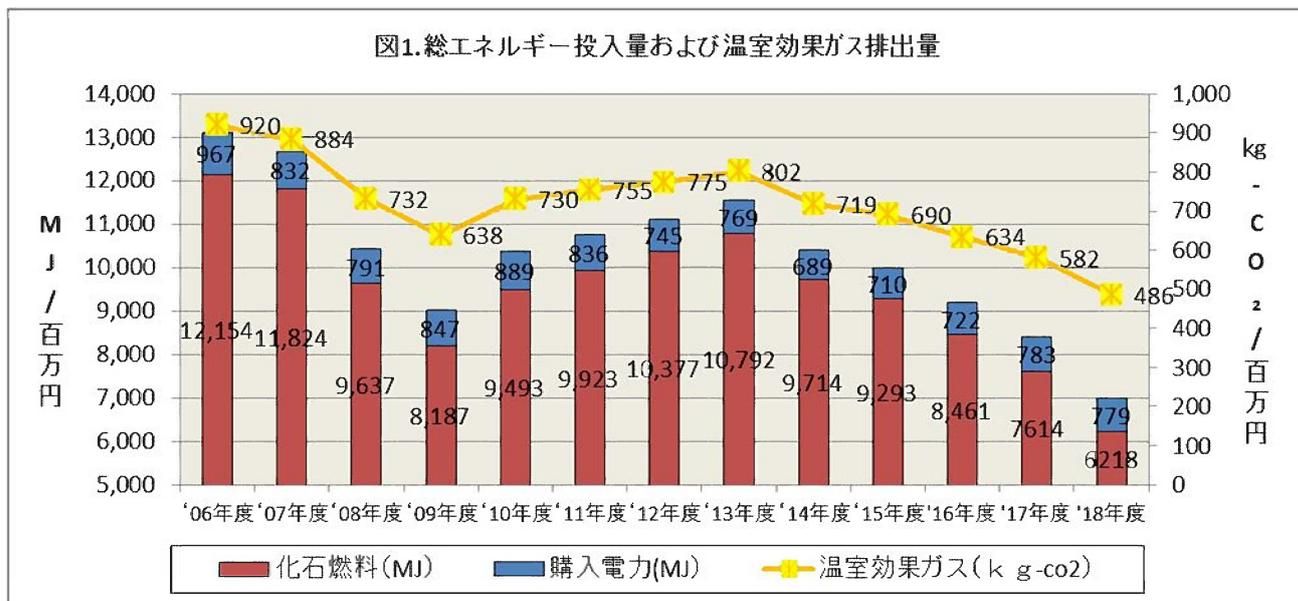


図1より、温室効果ガス排出量は、年度によりバラつきはあるが、2013年度以降は年々減少している。また、2018年度は化石燃料の使用量を減らすことによってこれまでの最低値を出すことができた。取組を始めた2006年度の排出を13年間続けた場合と比較して、この13年間で840,543Kg-CO₂の排出を抑制することができた。

図2. 過去13年間の一般廃棄物排出量(売上高百万円当たり)

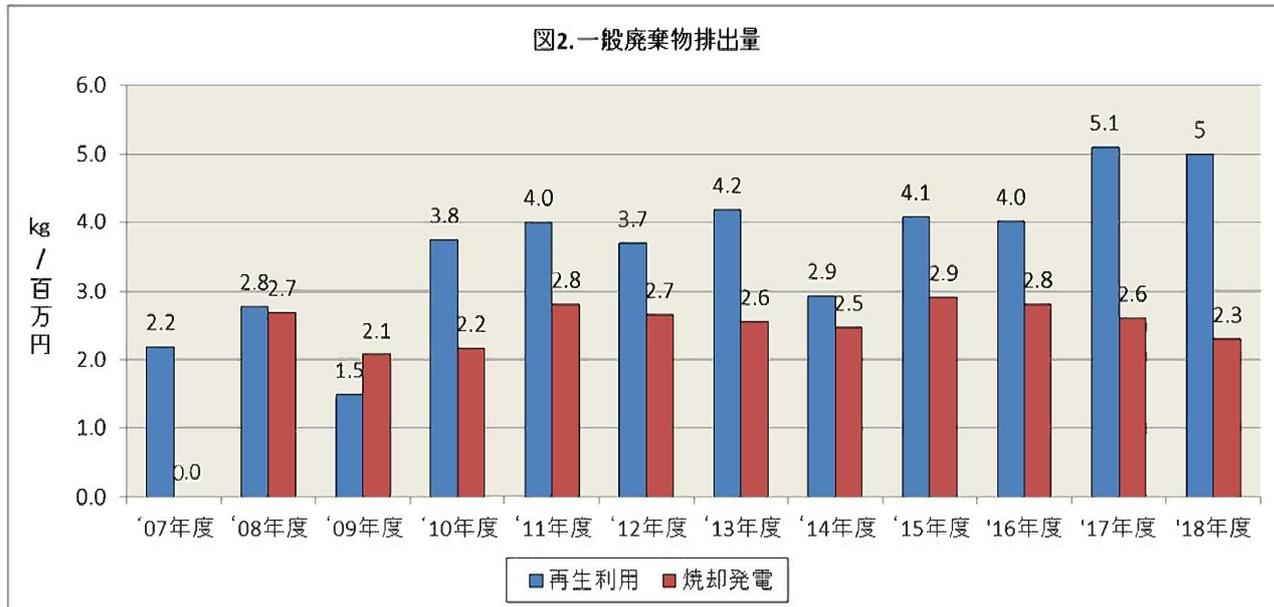


図2より、2017年度から再生利用が増加した。また焼却発電は排出量がある程度安定している。このことは分別の徹底が進んだためと思われるが、より向上させるためには、もう一歩進んだ取り組みが必要と思われる。

図 3.過去 13 年間の産業廃棄物排出量（売上高百万円当たり）

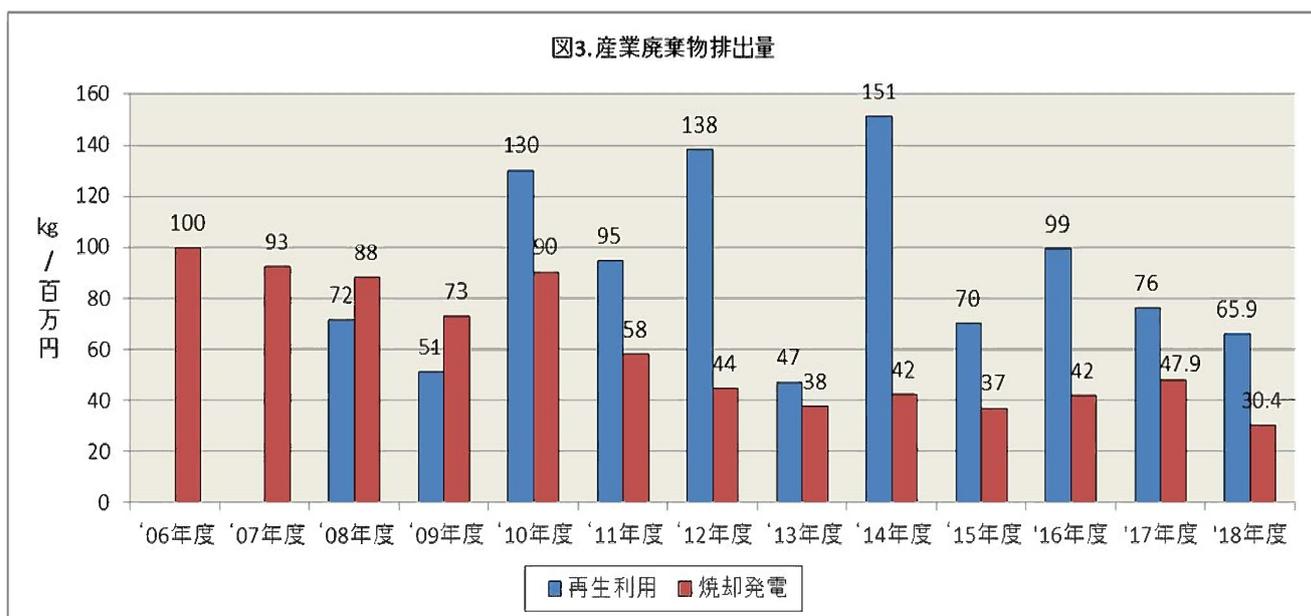


図 3 より、単純焼却は低い値で安定してきているが、再生利用は年度によりバラつきが見られる。

単純焼却が低値で安定していることから、分別の徹底が進み、リサイクル率が向上してきていると考えられる。

図 4.過去 13 年間の紙資源・水資源投入量（売上高百万円当たり）

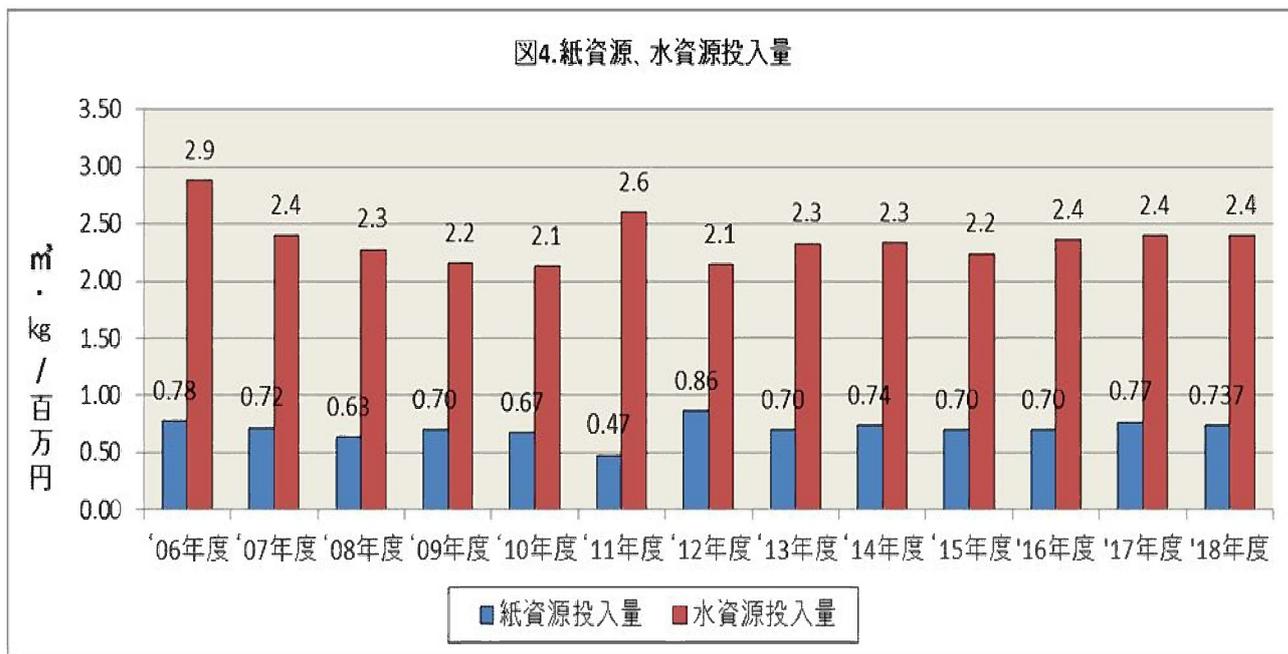


図 4 より、紙資源・水資源とも、あまり大きな変動はみられない。

表 5 に養殖サンゴの苗の移植放流数を示す。

表 5. 養殖サンゴの苗の移植放流数

申し込み年月		本 数	移植年月
2009 年度合計		17 本	
2010 年度合計		57 本	
2011 年度合計		62 本	社員分 27 本含む
2012 年度合計		28 本	
2013 年度合計		38 本	
2014 年度合計		84 本	30 周年記念含む
2015 年度合計		47 本	
2016 年度	2016 年 4 月	11 本	2016 年 7 月
	2016 年 7 月	12 本	2016 年 12 月
	2016 年 10 月	14 本	2016 年 12 月
	2017 年 1 月	7 本	2017 年 8 月
	2017 年 2 月	6 本	2017 年 8 月
2016 年度合計		50 本	
2017 年度	2017 年 5 月	11 本	
	2017 年 8 月	10 本	
	2017 年 11 月	10 本	
	2018 年 1 月	4 本	
2017 年度合計		35 本	
2018 年度	2018 年 3 月	9 本	
	2018 年 7 月	7 本	
	2018 年 10 月	17 本	
	2018 年 12 月	16 本	
	2019 年 2 月	10 本	
2018 年度合計		59 本	
合 計		477 本	



2009 年度から「海の種」様の協力を得て養殖サンゴの苗の移植放流活動を行っています。

移植放流後、サンゴ移植完了報告書『海からの感謝状』がお客様に郵送されます。

10 年間で 477 本の移植放流を行った。

【5】次年度の主な活動計画

環境方針① お客様へ、できるだけ環境にかける負荷が少ない商品を提供するように努めます。
・極超低騒音型・インバーター式発電機とLED照明器具の導入を更にすすめます。
環境方針② 濁水処理設備の更なる普及など、環境保全事業の拡充を図ります。
・お客様のニーズに対応した濁水処理設備や計測設備の開発をすすめます。
環境方針③ 沖縄の美しい海を保全し、生物多様性の維持に貢献するため、「海の種」の協力により養殖サンゴの苗を移植放流する活動に取り組みます。
・引き続き、濁水処理設備を1台納入するごとに、養殖サンゴの苗1本を移植放流する活動に取り組みます。
環境方針④ オフィス環境の省資源化、省エネルギー化および廃棄物削減に取り組みます。また、事務用品等の購入に際しては、できるだけ環境に配慮した製品を選定するように努めます。
(1) 電力・・・電気器具のスイッチをこまめに切り工夫を重ねて節電に取り組みます。 エアコンのメンテナンスを行います。
(2) 水資源・・・節水コマの使用や蛇口レバーに工夫をするなどして、無駄を省きます。 事務所および作業場等の水道使用量を計測するため、水道メーターを取り付けます。
(3) 紙資源・・・文書管理システム等の活用により、更なるペーパーレス化で削減を図ります。
(4) 一般廃棄物・・・分別を徹底し、計測の精度を上げる取組をします。
(5) グリーン購入・・・チェックリストを作成し、環境に配慮した商品の購入に努めます。
環境方針⑤ 使用する車両および機械等について、省資源化、省エネルギー化および廃棄物削減に取り組みます。また、車両および機械等の購入に際しては、できるだけ環境に配慮した製品を選定するように努めます。
(1) 電力・・・高圧洗浄機等の適切な使用により、節電に取り組みます。
(2) 燃料・・・安全運転を徹底し、急発進、急加速、急停止などを極力避けます。 エコドライブ講習会に、未受講の社員を優先的に参加させます。
(3) 水資源・・・雨水や処理水の利用を徹底します。
(4) 廃棄物排出量の削減・・・分別を徹底し、資源の再利用に努めます。
環境方針⑥ 化学物質の適切な管理と適切な使用量の設定等に努めます。
・化学物質の適正な管理を徹底します。 ・化学物質の特徴や取扱いについて社内学習会を行います。(年1回以上)
環境方針⑦ 持続可能な循環型社会の構築に向けて、社員、お客様、取引先、地域の皆様等へ環境情報の提供に努めます。
・環境問題について社内学習会を行います。(年1回) ・お客様、取引先等へ環境活動レポートを配布します。また、ホームページやラジオ番組、CM等を活用して環境情報を提供します。 ・中小企業家同友会の「見本市」に出展します。
環境方針⑧ 環境に関する法律、規則及び条例等を遵守し、環境保全に努めます。
・環境関連法規のとりまとめを行ない、遵守状況を3月と9月に確認します。 ・環境関連法規について社内学習会を行います。(年2回以上)
環境方針⑨ 全社員が一丸となって環境保全活動に取り組みます。
・全社員でエコアクション21の取組状況を確認し、改善点等について検討します。(年2回) ・環境委員会を定期的に関き、環境委員のレベルアップを図ります。(月1回以上) ・エコドライブ講習会などの外部講習会に参加します。

【6】環境関連法規等への違反、提訴等の有無

環境関連法規への違反、提訴等は1987年5月設立以来、1件もありません。

【7】代表者による全体評価と見直し

当社のエコアクション21は、2006年12月に取り組みを始めてから13年目となりました。この間、環境レポートの内容は年々充実し、2015年度からは「簡易版」と「資料集」を発行し、より判りやすくなってきたと思います。

13年という短い期間ですが、世界情勢は目まぐるしく変化してきました。例えば米国では、2009年のオバマ政権時にはグリーンニューディール政策が打ち出され、環境対策が一気に前進するかと思われました。しかし現在では、トランプ大統領によるパリ協定脱退表明など逆行する動きが目立っています。

京都議定書やパリ協定、SDGs等の考え方は、地球環境を保全していく上で必要なものであり、企業として、地球市民として、決してないがしろにはしないものです。激動する世界情勢の中においても、なぜ私達が環境問題に取り組まなくてはならないのか、常に考え、継続した取り組みを進めていきたいものです。

環境方針①～⑨の評価と見直しについて、それぞれ下記に述べます。

環境方針①では、発電機とライトについて考察がなされていて、より環境負荷の少ない製品の導入が進んでいることが分かります。しかし、それら以外にも環境負荷が少ないレンタル品の提供がなされているはずなので、今後はさらに考察の幅を広げて欲しいと思います。

環境方針②では、濁水処理設備の稼働率が昨年よりも向上し、流出防止土砂量も増加する結果となり、環境保全事業の拡充が見られます。しかし、なぜ稼働率を向上させることが出来たかという考察が不十分と思われまます。

環境方針③では、今年度は目標数以上のサンゴを移植放流し、10年間で477本のサンゴを移植放流することが出来ました。しかし、社歴が浅い社員の中には、この活動をよく理解できていない人もいます。改めて、この活動の意義や成果を確認する機会をもって欲しいと思います。

環境方針④は、事務所の電気使用量が昨年より減少しましたが、その考察が不十分です。また、水・紙資源と廃棄物については、水漏れやデータ測定の不備のため、十分な考察が出来ていません。より信頼性の高いデータを取れるよう努力して下さい。

環境方針⑤では、化石燃料の使用量と産業廃棄物の排出量で目標を達成していますが、化石燃料は自社使用量が増加しているため、お客様が使用した量の減少によって目

標達成ができています。次回は、自社使用量を抑制する取り組みについての考察を深めて欲しいと思います。

環境方針⑥～⑨については、ほぼ計画通りの活動が出来ているようですが、全社員への周知と、社員それぞれの理解の深さに課題があると思われます。すべての社員が一定レベルの理解となるまで、粘り強い取り組みを継続してください。

環境活動レポートの作成は少しずつ早くなってきましたが、今年度は業務上の都合もあり、完成まで約6か月かかってしまいました。次年度は4か月以内の完成を目標に取り組んで欲しいと思います。